

## 事案の概要

### 1 審議の対象とした番組

『報道ステーション』は平日の午後9時54分から11時10分まで放送されている。この前身の『ニュースステーション』は1985年、夜10時台で民放初の大型ニュース番組としてスタートし、18年半続いた。2004年4月から始まった『報道ステーション』はこの流れを受け継いでいる。

今回問題となった「川内原発 新規制基準で『合格証』」のニュースは、2014年9月10日、「都心で突然“猛烈な雨”」などに続く3番目の項目として、約8分間にわたり放送された（以下「本件放送」という）。

まず、メインキャスターが「主に疑問はこれに関して3つあります」と切り出し、約5分40秒のVTRが放送された。前半では、川内原発の設計変更を許可した原子力規制委の模様や地元住民の賛否両論を紹介した後、事故が起こった際に住民の安全を確保する避難計画の問題点や、免震重要棟などの重要施設が未完成であることを指摘した（以下「避難計画パート」という）。VTRの後半は、田中委員長の記者会見での質疑応答や火山の専門家の意見を交えながら、火山についての審査基準に疑問を呈する内容だった（以下「火山パート」という）。

火山パートの放送は「さらに大きな問題がある。火山に関する審査基準の一部が適切でないことを規制委員会は認めていた。きょうもこの点に質問が集中した」というナレーションで始まり、こんなやり取りが映し出された。

**X記者「火山に対する予測であるとか影響に関して（火山学者からの）非常に大きな批判がございましたけれども」**

この後、瞬間的に画面を白くする手法（白飛ばし）が用いられた。

**Y記者「現在の科学の知見をねじ曲げて、これで審査書を出すと、いわゆる安全神話の復活になるということは言えないのでしょうか。以上です」**

**田中委員長「答える必要がありますか。なさそうだからやめておきます」**

これに続いて、「火山噴火予知連の会長ら火山学者の多くが、巨大火山の噴火の前兆をとらえるのは困難だと審査基準に疑義を呈した。その意見を受け、規制委員会は火山の審査基準そのものを今後修正することも検討している」というナレーションが流れ、田中委員長の会見の質疑応答が再びVTRで紹介された。

**Z記者「間違ったガイドを基に審査をしてしまったことについて、ガイドを作る過程でのチェック体制にいろいろ問題があったのではないのか」**

**田中委員長「いや、100%、100点だと申し上げるつもりはなくて、それは速やかに直して、きちっとバックフィット（基準の更新）が必要であれば、そういうふうにしていけばいいと」**

最後は、メインキャスターが「田中委員長は『新規制基準イコール安全基準ではない』とおっしゃっていますよね。そういうような一部の問題が全体安全という形で再稼働が進んでいくことに、疑問を持つところがあるということです」と結んだ。

## 2 訂正・お詫び放送の経緯と内容

この火山パートに対し、原子力規制庁は放送翌日の11日午後6時すぎ、「内容の一部に事実誤認や誤解を与える不適切な編集がある」としてテレビ朝日に抗議し、原子力規制委のホームページでその内容を公表した。

まず「『火山の審査基準』に関する事実誤認」として、「番組で引用された記者会見における記者（注：Z記者）の質問は、竜巻の影響評価ガイドについてであり、火山に関することではない。これは事実誤認に基づいた編集である」と指摘した。

続いて「委員長の発言姿勢について誤解を与える編集」を問題視した。番組では、1人目のX記者の質問と2人目のY記者の質問を連続させ、あたかも田中委員長が双方の質問に対して答える必要がない、と回答したように編集されている。しかし、田中委員長はX記者の質問には別途回答している。Y記者の質問については、直前に同じ内容が繰り返されたので、答える必要があるかどうか疑問を呈したものである。当初から答える必要がないと回答したような編集は不適切 という指摘だった。

テレビ朝日報道局はこの問題を把握した11日夜、原子力規制委の抗議と放送内容を精査するとともに、編成、広報、法務など危機管理部門の担当者を含む「放送緊急対策委員会」の開催を呼びかけた。同委員会は12日午前に関かれ、「記者の質問のうち竜巻の影響評価ガイドと火山の影響評価ガイドを取り違えた事実誤認」と「田中委員長の発言についての不適切な編集」の2点の誤りを確認した。12日午後、原子力規制委に謝罪文を提出し、番組の中で訂正・お詫びをすることも口頭で伝えた。

『報道ステーション』は12日、約4分40秒の時間を割いて訂正とお詫びを放送した。メインキャスターが田中委員長の会見の質疑応答をめぐる2つの誤りについてフリップボードを使って説明し、「大きな間違いを犯しました。田中委員長をはじめ関係者の方々、そして何よりもテレビをご覧の皆様方を含め、本当に心からお詫びを申し上げます」と頭を下げた。

なお、原子力規制委は「番組では、規制委員会が火山の審査基準を今後修正することを検討していると報じているが、現時点で予定していない」という表現で、火山パートのナレーションも事実誤認と指摘した。これに対し、テレビ朝日は「取材に基づいた報道」と説明した。その後、原子力規制委からの言及はないというので、委員会としてはこの点に立ち入らない。